

科目ナンバリング									
授業科目名 <英訳>	言語機能論 Language and its Functions				担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 守田 貴弘			
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・前期		曜時限	水2		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
【授業の概要・目的】									
<p>この授業のテーマは「ことばはどこにあるのか」という問いについて考えることである。言語を対象とする学問は言語学だけではなく、哲学や文学、認知科学、脳神経科学、生物学といったさまざまな学問領域でも研究対象にもなり、言語をどのようなものとして捉えるのかという視座が学問領域によってあらかじめ決まっているという側面がある。一方、言語学の内部においても、言語の見方はさまざまであり、領域全体に共通の定説はない。この授業では、言語学をベースとして言語について理解したいと素朴に考えるとき、まずは「そもそも言語はどこにあるのか」と考えてみることで、自分の知ろうとしている言語の姿を浮き彫りにすることを目的とする。そして、何らかの意味で言語を専門とする受講生にとっては、言語の研究とはどのようなものかという自身の答えを導き出してもらいたい。</p>									
【到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・言語を捉える複数の視座があることを理解できる。 ・言語に関わる諸問題に対する、受講生自身の視座を定めることができる。 									
【授業計画と内容】									
<p>言語学の歴史や他分野との関わりを概説するとともに、現在の理論言語学で扱われている言語の捉え方を検討していく。単なる概説というわけではなく、自らの経験に則して考えていくことが求められる。</p> <p>講義計画の概略は以下の通りだが、受講生の関心や議論の方向によって変更を加えることもある</p>									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 言語と言語もどきの境界 2. 外在物としての捉え方(1): アメリカ構造主義 3. 外在物としての捉え方(2): 外在物としての限界 4. 擬制としての言語 5. 普遍性と個別性 6. 動物コミュニケーションとの比較(1): 伝達行為か否か 7. 動物コミュニケーションとの比較(2): 動物にどこまで可能か 8. 内在主義の可能性(1): 統語論の自律性 9. 内在主義の可能性(2): 神経哲学的裏付け 10. 言語と意識の問題(1): 言語能力はどこまで(無)意識的か 11. 言語と意識の問題(2): 何を外在化すべきか 12. 意味と主観性(1): 共有される意味とそうではない意味 13. 意味と主観性(2): ヒトという限界 14. まとめ～外在主義と内在主義の融合可能性を探る 									
----- 言語機能論(2)へ続く -----									

言語機能論(2)

[履修要件]

言語科学IまたはIIを履修済みであることが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

平常点50%，期末レポート50%。平常点は授業中に書いてもらうエッセイ（5回程度を予定）および授業への貢献度で評価する。成績評価は本学評価基準に準ずる。

[教科書]

定めない。授業時にレジユメを配布する。

[参考書等]

（参考書）

畠山雄二 『理論言語学史』（開拓社）

Scott-Phillips, Thomas 『Speaking Our Minds』（Palgrave MacMillan）ISBN:978-1137334565

野矢茂樹 『心という難問』（講談社）ISBN:978-4062200783

[授業外学修（予習・復習）等]

期末レポートでは受講生自身が興味の対象とする言語に関する問題についていかにアプローチするかという問いを設定する予定である。紹介された参考文献を読む必要があり、毎回の授業の議論で疑問に思う点や独自の意見があるときに発表できるように準備すること。講義科目ではあるが、単なる座学・知識の吸収といったことだけを目的にするわけではない。

[その他（オフィスアワー等）]

- ・講義科目ではあるが、履修生の積極的な発言を歓迎する。
- ・講義は配布するレジユメと板書，スライド等を組み合わせて行う。
- ・オフィスアワー，連絡先等についてはKULASISにて確認のこと。メールでの質問は随時受けつける。オフィスアワー以外の時間であってもアポイントメントの相談は可能。

[主要授業科目（学部・学科名）]